

独自企画書

自治会を支援する会・西須磨

この「独自企画書」は、「須磨区地域提案型活動助成」において、平成4年度「自治会を支援するとともにその在り方を考える活動」を実施するための企画書です。

活動の趣旨・目的は、以下の通りです。

(目的) 少子高齢化時代を迎え、地域力がますます必要になっているにも関わらず、自治会后継者の不足など、地域力が弱体化しています。自治会が存続できるよう、支援体制を整えます。(意義) 自治会内、自治会間、さらには地域組織や役所などとの関係を密にすることにより、自治会力や地域力の向上を期待できます。その際ICT活用が役立つと考えます。(効果) コピー代や成果物配布費などを助成いただくことにより、スムーズな活動が可能になります。アドバイザー謝礼金、委託金などを助成いただくことにより、不足するICT技術力を補えます。そのことにより、地域力向上に寄与できると考えます。

(様式第3号 第7条関係)「活動企画書」に同文を記入しています。

この「独自企画書」は、三つの資料からなっています。

資料1：2021年度実績の概要と2022年度計画

資料2：情報通信技術に支援された関係構築 ～ 現実と仮想と交雑 (Ver. 2)

資料3：開発工程

1. 資料1：2021年度実績の概要と2022年度計画

(2021/04/11)に策定した「2021・2022年度活動に向けての企画検討書」をベースとして、2021年度実績と2022年度計画を整理しました。

「1.2. ガイダンスをブラッシュアップする」、「3. トータルシステムを整備する」は、2021年度実績で進まず、かつ、2022年度計画でも注力しません。これらの開発の効果が薄く見込まれるので、他に注力しようとしています。

「1.1. ホームページをブラッシュアップする」は、2021年度実績で注力し、かつ、2022年度計画でも注力します。情報発信の要であり、ICTの要でもあります。ホームページはPull型なので、見に来てもらわないと、いくら書き込んでも意味がありません。継続的に見に来てもらうため、投稿を継続します。

「2. ICTモデルの導入を検討する」は、「4.1.1. ●●町●丁目自治会を支援する」にあまりにも手を取られたため、2021年度には、あまり進展できませんでした。ただ、自治会をめぐるICT活用事例や技術の調査は進め、資料2で示すよう、ICT開発の構想をまとめ、重点方針を定めました。2022年度は、それを実行に移していきます。

「4.1. 自治会を支援する」は、2021年度の●●町●丁目支援で成果があがりました。ただし、支援打ち切りの要請を受けたので、2022年度には継続しません。

「4.2. 認知症になっても住めるまちの基盤をつくる」は、検討は進めたもののコロナ禍のため、2021年度は実践できませんでした。2022年度は、「テーマ型」として防災なども含めて拡大して検討を進めますが、コロナ禍のため前年度と同様の制約がかかる可能性があり、進まないかもしれません。

「4.3. ホームページ、ガイダンスの活用を西須磨で広げる」は、2021年度には成果がありませんでした。2022年度は、ホームページ活用拡大は、引き続き目指します。

「4.4. 独立組織としての基盤を整備する」は、引き続き目指しますが、どこまでできるか分かりません。

2. 資料2：情報通信技術に支援された関係構築 ～ 現実と仮想と交雑 (Ver.2)

資料1で各項目が羅列されていましたが、それを構造化しました。「関係構築により、自治会力・地域力が向上する」を背景の考えとし、「関係構築」を構想の中心に据えます。具体的には「現実(Real)関係」と「仮想(Virtual)関係」の構築を目指すようまとめました。

資料1の「計画1.1」「計画2」「計画4」「計画4.2」を、資料2の上に示しました。

また、「注目分野」を明示しました。

3. 資料3：開発工程

資料1、2で示された課題を、4つの項目「関係(Relationship)構築」「現実(Real)」「交雑(Hybrid)」「仮想(Virtual)／情報通信技術(ICT)」に分けて、各々どのような手順でどこから始めるかを「検討手順」で示しました。

以上